

令和元年度 輪之内町立仁木小学校 自己評価書

学校の教育目標	ひろい心をもち 豊かに表現できる子
経営の重点	<p>・学校の教育目標の具現に徹する学校経営</p> <p>・一人一人のよさを引き出し、生かし、伸ばす意図的・継続的な指導・支援の推進</p> <p>①学級経営 ②学習指導 ③安全教育 ④道徳教育 ⑤家庭・地域との連携 ⑥働き方改革</p> <p>「陰日向なくひたむきに取り組む姿を徹底して褒める」</p>

評価基準 A(3ポイント):実践し、効果をあげることができた。
 B(2ポイント):実践し、一部の効果をあげることができた。
 C(1ポイント):実践し、僅かだが効果をあげることができた。
 D(0ポイント):実践したが、効果をあげることができなかった。

町の重点	評価の窓	教員評価ポイント	評価	成果	来年度以降の課題と改善策
【学校経営】 全教職員が協力して活力ある学校経営をする。	勤務の適正化と教職員が健康でやりがいをもてる経営	73.8	B	<ul style="list-style-type: none"> ○水曜日の早帰り(18:00退校)が達成できている。 ○働き方改革から見ても改善が進み、児童と向き合う時間が増えた。 ○協働活動サポーターに仕事を頼むことができたので、放課後他のことに時間が使えた。 ○学習支援員に入ってもらい、少しずつ問題に取り組める児童が増えた。 ○行事の取組等、職員が協力して取り組めたため、自分の時間の有意義に使うことができた。 ○放課後に児童の話題が出ることで情報共有できたり、相談や意見を求めやすい職員関係がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ■8の付く日にも少しずつ拡大していく。時間外勤務 45h/月を目指す。そのために会議や行事、自課の見直しを進める。 ■ボランティアスタッフ、支援員の活用を推進する。学年や教科に応じて、学習支援員の配置をさらに工夫したり、弾力的に変更したりする。 ■果の「研修等の事業を設定しない日8/4~16」には、学校も会議等を入れないようにする。 ■仕事の内容面において、統合や削除が行えるように検討する。 ■登下校の班長会などの回数を削減する。
【研修】 自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける。	学校教育目標実現に向けて資質向上を図り、組織的・継続的な研修の実施	81.0	A	<ul style="list-style-type: none"> ○終礼の児童交流や研修により、いじめについて考える機会が定期的に設けられていたため、いじめや問題行動、教育相談のあり方について考えることができた。 ○全学年が計画的に算数の研究授業を行い、授業改善を行っている。全校研究等で見た授業を参考に、自分の授業にも取り入れることができた。 ○プログラミング研修の充実により授業にどう活かしていくか探求できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■新学習指導要領に対応した研修を、年間を通して計画的に位置付け、実施する。 ■終礼後の研修の内容を精選する。 ■時間短縮が5時間目などの児童が少し早く下校する曜日に設定する。 ■職員会議が2ヶ月に1回になったので、計画的に職員会議のない月に研修を計画的に位置づける。
【教科指導】 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て、学力向上を推進する。	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	76.2	B	<ul style="list-style-type: none"> ○年間を通して、算数科に絞って校内研究会を実施し、授業改善に取り組めた。どうしてその答えになったのか、また、どうして違うのかなど、意図的に対話的な活動(ペア・スクランブル)を取り入れることができた。効果的な対話活動についても検証ができた。 ○対話的な活動を通して、自分で考える習慣が付き、算数が苦手と言っている児童が分からないところを自主的に質問できるようになった。 ○学ぶ意欲を引き出す場面、交流の必要性を生み出す場面でのICT活用ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■深い学びの視点からの評価、授業改善を図る。 ■主体的・対話的で深い学びを生み出す道具としてのタブレットの活用についてさらに研究を進める。 ■対話的な活動を取り入れたことで、学ぶ意欲や態度、学力の向上につながっているかの検証する。 ■考え方の前に、基本の計算がまだ正しくない児童がいる。対話的な活動ができる子でない子の差が大きいため、継続的に対話的な活動を意図的に設け、練習していく。
【道徳教育】 自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる。	生き方についての考えを深める特別の教科道徳の充実	69.0	B	<ul style="list-style-type: none"> ○指導計画に沿って計画的に道徳の授業が実施できた。 ○全校で道徳ノート統一して取り組むことができた。そのことで、学習の積み上げができた。 ○主人公のすこいところを探しながら話を聞き、見つけて話す児童が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■他学級の道徳の授業参観を通して学び合えるように。 ■道徳で学んだことを生かし、帰りの会での自己指導能力を養う問いかけを行う。 ■正しく自己を見つめることができる授業づくりが必要である。 ■道徳においても対話的な活動(ペア・スクランブル交流)を取り入れ、工夫した授業を行う。
【外国語教育】 外国語に慣れ親しみ、コミュニケーション能力を高める。	主体的にコミュニケーションを図る姿が具現される指導方法等の工夫	78.6	B	<ul style="list-style-type: none"> ○英語専科教員とALTの打ち合わせ時間を確保し、指導内容や指導方法の確認ができた。 ○「英語の勉強は好きですか。」というアンケートに対し、「あてはまる」「どちらかというとあてはまる」と回答した児童は5年、6年生とも90%以上である。 ○外国語に親しみをもつことができた。 ○6年生の修学旅行では外国の方に出会った時、堂々とした態度で躊躇なく積極的にコミュニケーションをとる姿があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ■日常生活の中で外国語に親しむ時間がないため、お昼の放送で英語の歌を流したり、授業以外でALTとの交流したりする時間を確保する。ALTとランチの日は、昼休みも一緒に遊ぶようにする。 ■1年生には内容が難しい。そのため、英語を習っている子は意欲的に参加しているが、苦手意識をもっている子も多い。学習内容を変更していくことも考える。
【総合的な学習の時間】 探究的な学習を通して、よりよく問題を解決する資質・能力を育てる。	「ふるさと輪之内」に学ぶ態度と輪之内を愛し誇りに思う心を育成する探究活動の充実	76.2	B	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年のテーマに沿って、地域人材や外部講師を活用しながら実施できている。特に、3年生「懸崖菊づくり」、5年生「お米作り」は、地域の人材を活用して学習をすることができた。そのことで、地元の産業、関わる地域の人のふれあいをし、ふるさと輪之内を誇りに思う心の育成につながった。 ○社会科の学習と絡めて、仁木校区の探検・調べ学習・見学を通してふるさとである「輪之内」のよさを知ることができた。第4学年では輪中に住む人々の暮らしや川の生き物の実態について調査することができた。 ○給食献立に輪之内産のものが使用されたり、アイガモ農法で作ったお米を食べたり、学校活動全体で学びを広げられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■学習が本当に探究活動になっているか見直ししていく。 ■プログラミングに関わる部分を位置付ける。 ■3年生「懸崖菊づくり」では、今で行ったことがないことを体験できることはよいが、時間が限られているため、児童が主体の活動ではなく、準備されたことを行う時間になっている。自分たちでできる活動を増やす。 ■校外学習などに、コミュニティ・スクールボランティアの方も一緒にきてもらって、一緒に学習したり、地域のことを教えてもらったりする機会を増やす。 ■総合的な学習の時間の中でできるような試行錯誤が、他教科の授業には繋がっていない。他教科の授業でも失敗を恐れずに考えられる力を養う。 ■総合的な学習の時間に関わらず、あらゆる場面で地域のことに目を向けられるとよい。
【特別活動】 所属感を高め、よりよい生活や望ましい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。	望ましい人間関係や学級集団としてのまとまりを育てる学級経営の充実(QU検査の活用)	76.2	B	<ul style="list-style-type: none"> ○創意工夫のある活動や自治的な活動ができるようになってきている。 ○QU検査を2回実施した。夏季休業中に研修を行い、結果の考察を行い、要支援群の児童に対し、意識して指導・援助することができた。 ○仲間の大切さ、優しさ、思いやり、協力性、挨拶、態度など、お互いのよさを認めつつ、だめなところはだめだと気づかせ、よりよい関係づくりをもたせることができた。 ○行事に向けてクラスの目指す姿を意識し、取り組み内容を工夫したり、話し合いを重ねたりしたことで、やり遂げる達成感を感じさせることができていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■QU検査の1回目と2回目の検査の結果から、要支援群のままの児童や下がってしまった児童に対して、どのような支援をしていくか検証する。 ■相手のことを考えず、自分の興味だけで行動している児童もいる。その都度、自分だったらどう思うか、声をかけ考えさせる指導を継続する。 ■児童が主体となった意図的な活動を仕組み、学級のまとまりを高める。 ■より仲良くするための学級遊びを継続して行う。そのために、みどりの時間をなるべく学級遊びの時間にして、昼休みは、委員会活動や図書館へ行くなど、他学年とのふれあい等自由な時間にする。
【生徒指導】 共感的な児童生徒理解に徹し、よりよい人間関係の形成を図り、自己指導能力を育てる。	児童生徒理解の深化を図り、教職員と児童生徒との信頼関係の構築	73.8	B	<ul style="list-style-type: none"> ○日常の観察や教育相談、仲間アンケートにより、児童の困り感を把握するように努めることができた。 ○生徒指導交流が週1回行われ、情報が共有されている。必ず情報は管理職まで報告されている。 ○6月に学級目標「ぼかぼか宣言」の発表、12月に中間報告会が行われ、年間を通した指導サイクルを試みつつ、学級経営を行うことができた。 ○どの職員もアンテナを高くして、子どもたちの変化を見て、担任に知らせたり、関係職員に知らせたりして、みんなで考えていこうとする基盤ができていく。担任のみあるいは生徒指導主事のみが指導するのではなく、みんなで学校全体を見守ることができている。 ○兄弟関係、家族関係、家庭環境、児童のトラブルや抱える問題の背景にあるものを理解し、児童にかける言葉や関わり方を考えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■対応が難しい児童が増えている。より個に応じた指導を進めていく。生徒指導交流のおがげで、全体の児童の様子や動きを把握できるので継続して行う。 ■休み時間は宿題を見ることが多くなり、時期によっては授業準備や生徒指導などにより、じっくり話を聞く時間がとれなかったりすることがある。教育相談の時間を確保するために、職員が余裕をもって仕事に取り組めるよう、仕事の精選をしていく必要がある。
【キャリア教育】 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育てる。	勤労観・職業観を育成する体験活動の位置づけと事前・事後指導の充実	64.3	B	<ul style="list-style-type: none"> ○「黙々掃除」を合言葉に、一生懸命に掃除する児童が多く、黙々掃除が徹底されてきた。 ○いんがく産産組合の方や米作りに携わる方、福祉施設で働く方との交流を通して、仕事への思いなどを学ぶことができた。 ○6年生で福祉の体験活動を実施しており、人のために働きたいという思いが育ってきている。 ○係の仕事をおぼろげにする子が増えた。また、仲間への呼びかけの仕方を工夫している係もあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ■コミュニティ・スクールボランティア・スタッフなど、人材を発掘する。 ■掃除の時間は、静かに行うことが身についたことで、どうするときにいいのかなど、何のための掃除なのかなど学年に応じた指導をする。 ■下駄箱の靴の整理がとてよい。トイレスリッパの乱れ、基本的なマナーについてさらに意識を高める指導を継続する。 ■人の役に立つこと、次の人のために思いやりの行動ができるよう1年生のうちから意識付ける。
【健康安全教育】 運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を営む態度を育てる。	自ら命を守りきる防災意識を向上させるための指導方法や指導体制の工夫改善	76.2	B	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な想定(煙体験、消火器体験、近年の地震動向に合わせた訓練、不審者対応訓練)で、年8回の命を守る訓練を実施し、自分の命は自分で守ろうという意識を高めている。職員の動きも確認することができた。 ○訓練で、担任がいなくても児童が自ら動き点呼・報告をする姿があり児童の判断力が身につけていると感じる。 ○食に関する指導を、栄養教諭と担任が連携して計画的に進めることができた。 ○体育委員の呼びかけにより、外遊びする児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ■4月に危機管理マニュアルでの講習を行い共通理解を図る。命を守る訓練において共通行動の確認を図る。 ■休み時間に予告無しでの訓練や担任がいなくても訓練などを行い、児童が自ら判断し行動できる力を身につけるようにする。
【特別支援教育】 一人一人の教育的ニーズに応じ、自立し社会参加するための基盤となる力を育てる。	特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制づくりと合理的配慮の構築	78.6	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学級担任と特別支援教育コーディネーターが連携し、個に応じた指導ができていく。 ○校内教育支援委員会を定期的に行っている。 ○通級指導教室でその子の課題となることについての援助をすることができた。通級指導担当と放課後話しながら、その子の支援について相談することができた。 ○学校生活や授業において、保護者の要望や生活体制が変わった時、支援員、交流学級の担任、特別支援教育コーディネーター、教頭、校長など、様々な職員の意見を取り入れて、最善の策を考えて対応することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■特別支援学級や通級指導教室のより一層の支援を充実させるために、学級担任と支援員の連携を強化していく。 ■人的条件や保護者の意向により、支援がされていないところもある。今後も様々な職員の意見を参考にし、職員が協力して、児童の様々なニーズに対応していきたい。 ■特別支援学級と親学級の交流機会を増やす。学級遊びに参加したり、給食交流を定期的に行ったりする。
【人権教育】 自他の大切さを認め、互いに人権を尊重する望ましい人間関係を醸成する。	児童生徒と全教職員が一体となったいじめや差別を許さない学校・学級づくり	83.3	A	<ul style="list-style-type: none"> ○児童会や学級において、「よいこと見つけ」を紹介する場面が多く設けられていることで、いじめや差別の未然防止につながっている。温かい言動が増えた。 ○日常の観察や教育相談、仲間アンケートなどにより、いじめの兆候を早期に発見することができた。 ○終礼での研修や児童交流で、いじめや問題行動について考えることができた。生徒指導交流などを通して、児童の様子や指導の共通理解が図られている。問題が発生したときには、職員で情報共有し、組織的に対応することができた。 ○生活委員会を人権担当委員会にし、担当職員を委員会と重ねたことで、年間を通して人権に対する活動ができた。「ぼかぼか宣言」を年度の早い時期に作れたことで、振り返りができる時間が多かった。 ○コミュニティ・スクールフェスタでの劇や全校集会の校長の話、びびきあい集会と何度も人権をテーマにした話や活動ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■いじめを生まない風土としての居場所づくりと絆づくりに一層努めていく。 ■帰りの会において、「よいこと見つけ」の紹介を徹して行うようにする。そのことで、仲間間のよさを見つけてようとする意欲や視点を養うとともに、仲間のために何かできることはないか、と考える児童がさらに増える。 ■いじめについて考える時間を設け、冗談で言ったつもりや言葉が相手を傷つけることもあるということを理解させたい。今後も困っている子を見つけたら、声をかけて、話を聞いて、他の仲間に入って遊ぶようにする。
【ICT教育】 児童生徒の情報モラルを高め、情報社会に対応できる情報活用能力を育てる。	ICTを有効活用した学習活動の充実	83.3	A	<ul style="list-style-type: none"> ○「まず、使ってみよう」という前向きな気持ちで、タブレットを使用している職員が多い。 ○職員の活用研修が行われ、全職員が使うことができる環境が整った。写真や動画を撮影するなど、使いやすくなり、積極的に活用されている。 ○プログラミング教育やタブレットを使った授業など、少しずつでも取り組むことができた。プログラミングの面白さを味わいつつ、正しいプログラミングの仕方考えさせることができた。 ○タブレットを活用する中で、パスワードの大切さを伝えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■新学習指導要領では、情報活用能力は言語能力と並び、基盤となる資質・能力として位置づけられている。情報活用能力に関わる指導を計画的に行う必要がある。例えば、キーボード入力のスキル、調べてまとめるための活用活動、プログラミング、情報モラルなど。 ■職員の技能によって、使用頻度の差ができる。定期的な活用方法についての交流や研修をしていく必要がある。 ■児童にスキルが身につくと大人以上に上達が早く学ぶ力も大きい。その分、さまざまな危険に出会う機会も増えるので、情報の活用について危険を理解させ、情報社会がもたらすメリットを理解した上で人のためになるスキルの探求ができることと良い。

学校関係者評価（第6回学校運営協議会）

<職員の勤務の適正化について>

- ・保護者にも水曜日がNO残業DAYであることが浸透している。
- ・土日に学校で仕事をされる方が減り、とてもよい。（車が学校の駐車場に止まっていないことが多い）

<授業改善について>

- ・家庭においても兄弟で意見を出し合っている場面がある。意見を出し合うことが普通になってきている。
- ・多くの参観者がある中で、その場にあった適切な声の大きさと話すことができていたことがよい。
- ・前を向き「しっかりと伝えよう」とする姿がよい。

<特別の教科道徳について>

- ・本日の発表の際に、全体の流れを分かっているお互いに補助し合う場面がみられ、素晴らしい。
- ・伝記を読むと、人の気持ちや考えが分かるのでとてもよい。
- ・損得で行動するのではなく、やるべきことをしっかりとやりきる指導をすると、自己肯定感が育つのではないか。

<総合的な学習の時間について>

- ・地元、ふるさとについて学ぶことはとても大切なことである。
- ・校外学習で子どもたちが地域に出た際に、地域のボランティアスタッフが講師として参加できるとよい。

<健康安全教育について>

- ・肥満の児童が減少した。
- ・登下校時に自然災害が起きた際の一時避難場所を確認する機会を設けるとよい。
- ・自転車に乗り慣れていない児童が多く危険である。

<特別支援教育・人権教育について>

- ・個にきちんと対応している。
- ・周りの子どもたちの対応がとてもよい。理解していて自然である。

<ICTの有効活用について>

- ・4年生で情報機器が上手く作動しなかった際に、落ち着いて対応し、操作していた。
- ・6年生のプログラミングによるマイクロビットの交流では、楽しく交流できた。また、難しいこともできてしまう子どもたちに驚いた。